

介護老人福祉施設 嬉の里

事業所データ

- 法人名 社会福祉法人 千尋会
- サービス種別 介護老人福祉施設
- 利用定員 70名
- 所在地 島尻郡南風原町字新川538
- 従業員数 81名（常勤50名/非常勤31名）



タスクシフトで誰もが働きやすい職場に

■ 定年を迎える職員の処遇が課題に

職員が定年を迎えるにあたり、施設側が提示できる選択肢は、これまで継続雇用か退職かの二択に限られていました。体力的な不安から従来どおりの仕事は難しいものの、できることはある、やる気もある、という職員もいます。こうした職員をどのように処遇していくかが課題となっていました。この課題に対する解決策として、タスクシフトに取り組んでいます。

■ タスクシフトの実施

タスクシフトとは、専門職が担っていた業務の一部を他の職員に移管する取組です。生産性向上委員会が中心となり、3か月かけて業務の洗い出しを行いました。その結果、シーツ交換や掃除といった約30項目の間接業務を切り出し、ケアサポーター（介護助手）に担っていただいています。また、ケアサポーターの方には業務内容確認評価シートを基に面談を実施し、どの業務を担えるのかを客観的に判断した上で業務を設定することで、現場でのミスマッチを防いでいます。



■ 現場との対話と協力、テクノロジーも含めた役割の見直し

ポイント 現場との対話と協力

膨大な業務を洗い出すにあたっては、日々忙しい現場職員の協力が不可欠でした。現場では、継続雇用された職員が従来どおりに業務をこなせず、業務の偏りが生じ、一部の職員の不満につながっている状況がありました。このような中で、現場と対話を重ねながらタスクシフトの目的をすり合わせることで、スムーズに現場からの協力を得ることができました。

ポイント 専門職、ケアサポーター、テクノロジーの三者の役割の見直し

業務の切り出しにあたっては、専門職やケアサポーターに加え、テクノロジーも業務の担い手として念頭に置きました。業務を洗い出した後、役割を改めて見直す過程で、テクノロジーを活用したオペレーションの見直しが進むなど、好影響も生まれています。



■ 残業時間が減少、ケアサポーターの増員、連携し合う環境に

専門職、ケアサポーター、テクノロジーの三者に業務を適切に振り分け、ケアサポーターの活用とタスクシフトに取り組んだ結果、専門職は専門性の高い業務に専念できるようになり、ケアの質の向上や残業時間の削減といった効果を得られました。

また、ケアサポーターとなった職員にとっても、自身が確実に担える業務を任されることで自信を持って仕事に取り組むことができ、現場では専門職とケアサポーターが連携し合う関係が築かれています。

	2022年	2025年
総残業時間	468 時間/年	161 時間/年
1人あたりの 平均残業時間	10.4 時間/年	3.2 時間/年



メッセージ

「5年先、10年先を見据えて」

5年先、10年先を見据えた視点が重要です。テクノロジーの導入やタスクシフトは、すぐに効果が表れるものではありませんが、取組を重ねることで、働きやすい職場が実現し、職員の安心やゆとりが生まれ、サービスの質の向上につながります。その結果、人材の確保や稼働率の向上といった好循環が生み出されています。また、こうした取組を積極的に発信することで、結果として採用にかかるコストの抑制にもつながっています。



宮城 誠さん
(本部企画室係長)



山内 満美さん
(嬉の里教育主任)